



発行日：2021年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第1回公開講座を開催しました！

山・川・海を通じた流域の課題として、マイクロプラスチック問題をテーマに、第1回公開講座を実施しました。講座は、豊田市にスタジオ会場を設置し、ZOOMウェビナーによるリモート方式で開催しました。

- ◆日時：2021年7月31日 15:00～17:00
- ◆テーマ：プラスチックが生き物を苦しめている
- ◆講師：千葉 賢氏（四日市大学環境情報学部 教授）
- ◆参加者：98名（ZOOM参加者77名・会場参加者21名）
- ◆参加地域：13都道府県（北海道、山形県、茨城県、山梨県、千葉県、東京都、静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、大阪府、兵庫県、福岡県）



◆公開講座の準備と進行

1. 事前打合せとスタジオ会場の設置



公開講座当日12時に、豊田市崇化館交流館にて、講演者・登壇予定者・事務局・事務局補佐が集まり、公開講座のタイムスケジュールや役割分担、ZOOM作動状況等について、最終確認を行いました。最終確認後は、古民家カフェ“kabo.”に移動し、スタジオ会場の設営を行いました。

2. 公開講座の開催



四日市大学環境情報学部教授 千葉氏を講師として迎え、以下の4部構成で公開講座を開催しました。

- 第1部 開会挨拶
市民部会会長の光岡氏より、開会の挨拶と公開講座の趣旨を説明していただきました。
- 第2部 講演
四日市大学教授の千葉氏より、「マイクロプラスチックが生き物を苦しめている」について、以下のテーマで講義していただきました。
【公開講座のテーマ】
海洋プラスチック問題に関するこれまでの経緯、国際的な動きなど
1. マイクロプラスチックとは？
2. マイクロプラスチックの生態系への影響
3. プラスチックごみとマイクロプラスチックによる伊勢湾の汚染
4. 今後の対策 ～ 私たちに出来ることは何か？ ～
- 第3部 ディスカッション
愛知・川の会の近藤氏の司会で、ディスカッションを行いました。ディスカッションには、矢作川流域圏懇談会の青木氏と野田氏、全国川ごみネットワークの金子氏と伊藤氏が登壇し、話題提供を行いました。また、参加者からは、日向氏と佐山氏の2名が登壇者となって話題提供を行いました。
- 第4部 閉会挨拶
豊橋河川事務所より、閉会の挨拶と矢作川流域圏懇談会のこれからの流域連携の方向等について、説明しました。

公開講座の様子は、YouTube で公開しています。【URL】 <https://youtu.be/TQCodHOXJs8>



事前打合せ



スタジオ会場の設置



公開講座の実施

◆ディスカッションでの主な質問と回答 (・質問 ▶回答)

- ・ 徐放性肥料カプセルの流出が多いが、内陸の河川での状況を教えてほしい。(日向)
 - ▶ 三重県の河川では、代掻きの後に徐放性肥料カプセルがたくさん見ついている。その時期が過ぎると全く出ておらず、流出量は時期的に違いがある。(千葉)
- ・ 日向さんは、山梨県内の農協にアンケートを行いたいとのことだが、なにかアドバイスはあるか。(近藤)
 - ▶ 農協でどの肥料を輪旋しているかなど。肥料の一部が徐放性肥料になっている。山梨県全体の水田での使用量がわかってくると、流出量が推定できるようになる。(千葉)
- ・ 帝京科学大学での調査では、川を流下する徐放性肥料のカプセルが引っ掛かってこないとのこと。(日向)
 - ▶ 徐放性肥料のカプセルは水に浮くので、川の表面で採取すれば採れるはず。徐放性肥料のカプセルは5月など限られた時期に出るので、調査時期や、採取ネットを張った期間などが関係しているかと思う。(千葉)
- ・ 農家の方々が徐放性肥料カプセルにより発生する問題を知らないで使っている可能性が高いと思う。農協単位で使うのを止めたという例もあると聞いている。(近藤)
 - ▶ 徐放性肥料は、日本の農業、特に高齢化で人手が不足している農業にとって、非常に重要な肥料になっている。使わないという選択ではなく、使う場合には、意識して、注意して使うという方向にもって行ってほしい。(千葉)
- ・ 海岸でごみを集めたりしているが、海岸に漂着しているプラスチックごみは、海全体からみてどれくらいの割合なのかかわからない。海岸でプラスチックごみを集めたり回収したりする意味はどうか。(青木)
 - ▶ 世界中で出た海洋プラスチックの2/3は海岸に漂着しているという研究がある。伊勢湾では、50%が海岸に漂着する。よって、海岸での清掃活動は意味があると思う。また市民の活動には啓発的な意味合いも大きい。(千葉)
 - ▶ 海岸ではごみが流れ着いてくるところが特定される。ごみが多いところを回収するのは有効で効率が良い。(金子)
 - ▶ 分解して小片化するのが主に海岸であれば、そうなる前に回収しておくことが有効かもしれない。(青木)
 - ▶ それぞれの場所に応じた条件で、回収や発生抑制対策を進める考え方で整理するとよいかと思う。(金子)
- ・ 日本はプラスチックごみに関して、危機感がない国、プラスチックが大好きな国と言われている。国の対応も緩いと言われている。マイクロプラスチック問題についても、意識している人はほとんどいないのではないかと思う。(近藤)
 - ▶ 海の場合、きれいな海水浴場で遊ぶことになるので、ごみの多い海岸がイメージされてこなかった。マイクロプラスチックが問題になってからは、報道で取り上げられることが多く、かなり認識されてきている。(金子)
- ・ 先日、豊川の河口でごみ拾いに参加したが、小さなマイクロプラスチックが混じっている。ハマグリのご糞を顕微鏡で見ると、ご糞の中に細片化されたマイクロプラスチックが入っている。(野田)
- ・ 漂着ごみだけではなく、瀬戸内海で海底ごみの引き上げをやっているというようなこともあり、海底にも溜まっているのではないかと思う。(近藤)
 - ▶ 伊勢湾では詳細な調査は行われていないが、漁業者が底引き網を使うと、かなり上がってくるような状況。(千葉)
- ・ 流域圏懇談会より、「農業系プラスチックの防止のために、一体何をすべきだろうか」という意見が出ている。農業系に対して、私たちは何をすればよいのかについて議論したい。(近藤)
 - ▶ 今年度中に農協へのアンケートを行おうと思っている。農協を含め、農家の方々は、自分たちが使っているものごどんな影響を起こしているのかを知らないことが多い。まず、そこから知ってもらわないといけないと思う。(日向)
 - ▶ 消費者の立場から積み上げて、上にあげていくこと。農業系のごみを減らすというのは、川のごみの現状をホームセンターや農協の担当者に伝えていくことが大事と思う。それと、法制度を作ること。法制度ができる時には多くの人の賛同がないとできないので、制度の必要性を理解してくれる人たちが多くならないといけない。(金子)
 - ▶ 東京の荒川河口のごみ拾いをやっている。マイクロプラスチックは、海から戻ってくるのではなく、川ですでにマイクロプラスチックになっているものも多い。(伊藤)
 - ▶ 農家や農協自身が、「安全な農産物を作りたい」というところからいくのがよいかと感じている。(沖)
- ・ 「徐放性肥料の次に気を付けるべきプラスチック製品には何かがあるのか」という質問が来ている。(近藤)
 - ▶ 量的に言えば、硬質プラスチックがある。生活から出たプラスチックが砕けたようなもの。そういうものを流出させないような生活スタイルが大切。不法投棄やポイ捨ては減ってきているが、下げ止まりの状況と思う。(千葉)
- ・ 「石油製品であるプラスチックに代わって、新たな素材の開発は進んでいるのか」という質問が来ている。(近藤)
 - ▶ 海の中で分解するようなプラスチックの開発について、国を挙げて進めているが、良い素材は見つからない。プラスチックにこだわらなければ、紙製品や竹製品とかに置き換える動きも出てきている。(千葉)
- ・ 河川管理者をやってきて、ごみ問題の質が変わってきたと感じている。河川管理者としてのごみ問題は、粗大ごみと美化の問題だったが、水質問題に変わってきたと思う。(近藤)
- ・ 生物の筋肉の中にプラスチックが入ってしまうというメカニズムがよくわからない。(佐山)
 - ▶ 論文の中にも明確には記されていない。筋肉の中から見つかるというメカニズムは調べていかなければいけないと記されている。かなりの数の魚介から見ついているので、普遍的なメカニズムがあるのではと思う。(千葉)
 - ▶ マイクロプラスチックが細胞膜を通過すると、プラスチックそのものが含有している有害な化学物質なども取り込まれてしまうという懸念にもなると思う。(金子)
- ・ 「水辺のごみ見つけ！」という活動を全国川ごみネットワークで実施している。109の水系で「川ごみマップ」が作成されている。(伊藤)
- ・ 現状を知ること。どうすればよいかは次の段階として考えなければならない。私たちは、それぞれの立場で行動していかなければならない。その入り口の話しを本日議論した。(近藤)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

